

エコアクション 21 環境経営レポート 2023 年度報告

『子どもたちの未来のために!』

(対象期間:2023 年 4 月 1 日~2024 年 3 月 31 日)



▲一宮生活協同組合 本部・生活センター



認証番号 0000072

[もくじ]

- 1.はじめに.....p2
- 2.21 世紀ビジョン/環境経営方針/中期目標.....p3
- 3.組織概要.....p4
- 4.環境経営目標と実施..... p5
- 5.2023 年度取組結果/評価/次年度の取組み... p7
- 6.環境関連法規等の遵守.....p10
- 7.代表者による全体評価/見直し..... p11



一宮生活協同組合

2024 年 6 月 28 日発行

2024 年 11 月 29 日改訂

1. はじめに

この環境経営レポートは、エコアクション 21 ガイドラインに基づき、一宮生活協同組合の環境経営について報告するものです。

「持続可能」「共生」をキーワードに、私たちは事業や暮らしのあり方を見直して取り組んでいます。

Think Globally, Act Locally

『子どもたちの未来のために!』



子どもたちにどんな地球環境を残せるかは、私たち大人の責任。

でも今のままだと大変。「負の遺産」ばかりが増えていく。

国連は SDGs (持続可能な開発目標) を決定し各国が取り組みを進めています。

キーワードは「持続可能」。2030 年までに実現する 17 の目標 (ゴール) が掲げられています。

貧困・衛生・教育・気候変動対策……世界が今抱えている問題を一つ一つ解決していくために、国、自治体、事業者での取り組みが期待されています。

私たち市民がすぐのできる行動があります。環境負荷を減らした暮らし方、エコライフです。

エコライフは、環境にも、家計にも、健康にも優しいスタイル。よりよい暮らしについて家族で話し合っ今日から取り組もう!

■エコアクション 21 は、環境省が策定し推進している環境経営システムです。

◎二酸化炭素の排出量の削減や水資源の使用管理と無駄の抑制、廃棄物の排出管理と発生の抑制、グリーン購入の推進、環境配慮商品とサービスの提供について、Plan(計画)、Do(実行)、Check(点検)、Act(改善)を回して取り組んでいます。

◎みんなで出資して作っている生活協同組合です。事業活動だけではなく、組合員の家庭での取り組みも呼びかけています。また、未来の担い手、子どもたちへの環境教育にも力を入れて取り組んでいます。



【エコアクション 21 認証・登録】

＊認証・登録の対象事業所と事業活動＊

◎登録事業者：一宮生活協同組合

◎対象事業所：本部センター、稲沢センター、東部センター、今伊勢ステーション、藤ヶ丘ステーション、津島ステーション、せんい団地ステーション、小牧営業所

◎事業活動：食品及び生活用品等の無店舗での購買事業

2. 21 世紀ビジョン/環境経営方針/中期目標

組合員みんなの願いを織り込んで 21 世紀ビジョンを策定。

このビジョンの実現をめざし、環境経営方針を定め、組合員と職員が協同して取り組んでいます。

[21 世紀ビジョン]

4 環境・生態系維持への配慮をします。 (第 58 回通常総代会 1999 年)

1 農薬や化学肥料の大量使用は、生態系や水質に大きな影響を与えてきました。私たちは環境保全循環型の農畜生産者との連携を確立し、環境や資源を守っていきます。

2 正しい情報をもとに、環境保全の活動を広げていきます。

3 容器・包装・紙ゴミのリサイクル活動に参加し、それを生かした環境商品の利用をします。

4 私達は、地球温暖化防止のためにエネルギーの浪費をなくします。

5 私達は、資源の浪費をなくし、ゴミの減量化も考慮して環境にやさしい暮らしを追求していきます。

[環境経営方針]

1. 商 品 環境に配慮した商品の選択・開発と提供を継続実施します。

2. 事 業 協同の事業を環境保全型・低炭素型の事業に転換していきます。

3. く ら し 暮らしの見直しを進め、エコライフを実行します。

4. 子 ど も 未来を担う子どもたちに環境教育を行います。

5. 地 域 地域の行政・市民・事業者と協同して、持続可能な環境循環型社会の実現をめざします。

6. 法令の遵守 環境関連の法令、条例、その他受入れを決めた要求事項を遵守します。

理事長(代表理事) 船橋弘行

2004 年 5 月 10 日 制定

2014 年 5 月 19 日 改訂

【中期目標】 (～2023 年度実績 / 2024 年度目標～)

2030 年には二酸化炭素排出量 5%の削減(2022 年比)を目指しています。

項目	二酸化炭素削減目標		水 資 源 目 標		循環型資源回収目標	
年度	排出量(t)	2022 年比	使用量(m ³)	2022 年比	回収量(t)	2022 年比
2022 年	442	100%	534	100%	266	100%
2023 年	438(438)	99%	392(529)	73%	249(280)	94%
2024 年	433	98%	392	73%	256	96%
2025 年	430	97%	388	73%	-	-
2026 年	427	97%	384	72%	-	-
2030 年	420	95%	370	69%	-	-

※二酸化炭素排出量係数 2022 年度より調整後排出係数 0.426kg-CO₂/kWh: 中部電力ミライズ 2019 年実績

※実績数値の小数点第一位以下は四捨五入で表しています

※2023 年度の数値の()内は目標数値を表しています

※2025 年度以降の循環型資源回収目標の数値は、今後、検討していきます

3. 組織概要

○愛知県西尾張の生活者が、出資・利用・運営をしている生活協同組合です。

○共同購買事業により、食材を中心に組合員の暮らしをサポートしています。

①名称及び代表者名：

一宮生活協同組合 理事長 船橋 拓行

②本部所在地：

一宮市末広2丁目19番1号

③事業内容：

食品及び生活用品等の宅配による供給事業

[沿革]

1949年に、当地方繊維産業を中心とした勤労者のための福利厚生事業（職域生協）として設立し、70年代半ばに経営危機に陥るが、「生協の灯を消すな」「安全安心な食生活を」と再建・再生して、以降は地域生協として共同購入事業を展開し、現在に至る。組合員の願いを織り込んだ21世紀ビジョンと第3次中期3ヵ年計画（2022年度～2024年度）の実現をめざし邁進しています。

④事業規模：

- ・組合員数 35,025人
- ・供給高 43億3,427万円
- ・出資金 9億6,924万円
- ・従業員数 83人
- ・事業所 3事業所/4ステーション/1営業所（延べ床面積 5,090 m²）
本部センター … 一宮市末広2丁目19番1号
稲沢センター … 稲沢市大矢町高松45番地の1
東部センター … 一宮市千秋町加茂字五坊野58-2
- ・展開エリア 一宮市、稲沢市、愛西市、あま市、海部郡、清須市、北名古屋市、津島市、愛西市、弥富市、江南市、小牧市、丹羽郡、犬山市、岩倉市、西春日井郡、春日井市、名古屋市、三重県いなべ市、亀山市、桑名市、鈴鹿市、津市、四日市市、朝日町、川越町、木曽岬町、菰野町、東員町



【管轄事業所】

- 本部センター
 - ③せんい団地ステーション
 - ④今伊勢ステーション
 - ⑤本部センター/生活センター

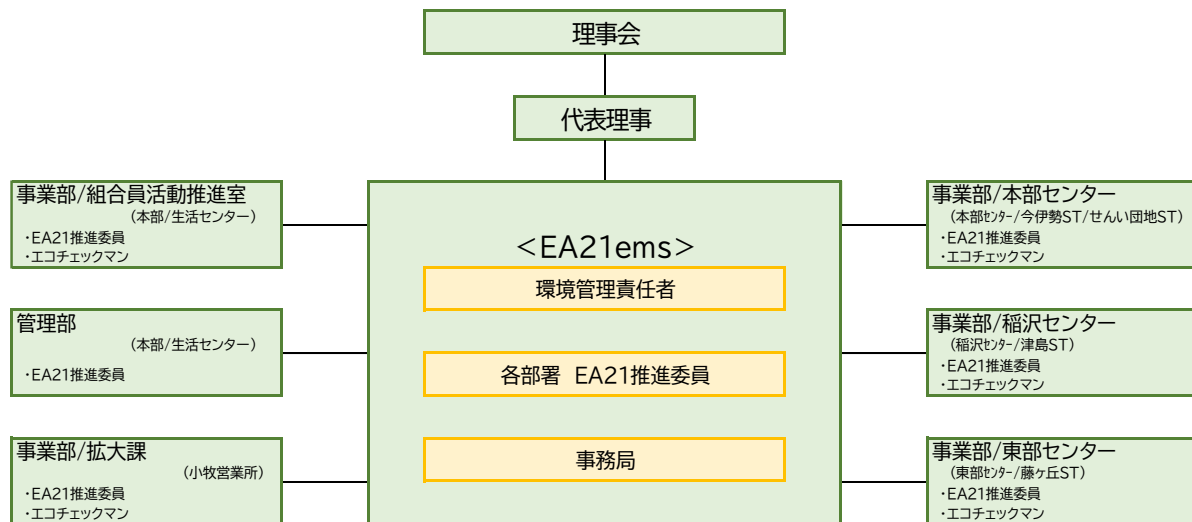
- 稲沢センター
 - ⑥稲沢センター
 - ⑦津島ステーション

- 東部センター
 - ①藤ヶ丘ステーション
 - ②東部センター

【営業所】

- 小牧営業所

⑤ 実施体制図：



＊2023 年度推進体制＊

代 表 者 船橋拓行 理事長(代表理事) / 環境管理責任者 三谷雅昭 理事 (EA21 事務局)

EA21 推進委員 小林昌夫 専務理事(代表理事)、尾崎貴紀 事業部部长、加藤勝啓 事業部本部センター長、
新藤亮一 事業部 稲沢センター長、小川義勝 事業部 東部センター長

4. 環境経営目標と実績

■2023 年度 実績 ※2019 年中部電力ミライズ 二酸化炭素排出係数 調整後排出係数 0.426kg-CO₂/kWh

項 目		年 度	2022 年	2023 年		2024 年	2025 年
			基準年度	目標	実績	目標	目標
①供給事業							
供給高実績	百万円		4,007	4,388	4,334	4,632	5,120
前年比	%		-	110%	108%	107%	110%
②二酸化炭素							
排出量合計	t-CO ₂		442	438	438	433	430
2022 年比	%		-	99%	99%	98%	97%
前年比	増減率		-	△1%	△1%	△1%	△1%
購買電力							
二酸化炭素排出量	t-CO ₂		278	278	283	275	272
2022 年比	%		-	100%	102%	99%	98%
前年比	増減率		-	±0%	+2%	△1%	△1%
化石燃料							
二酸化炭素排出量	t-CO ₂		164	160	154	158	158
2022 年比	%		-	98%	94%	103%	103%
前年比	増減率		-	△2%	△6%	+3%	±0%
③水資源 使用量	m ³		534	529	392	392	388
2022 年比	%		-	99%	73%	73%	73%
前年比	増減率		-	△1%	△27%	±0%	±0%
④循環型資源 回収量	t		266	280	249	256	-
2022 年比	%		-	105%	94%	96%	-
前年比	増減率		-	+5%	△6%	+3%	-

※2023 年度より 2022 年度を基準年として設定

※実績数値の小数点第一位以下は四捨五入で表しています

※2025 年度以降の循環型資源回収目標の数値は、今後、検討していきます

[事業所別 二酸化炭素排出量]

事業所 項 目		本部センター	稲沢センター	東部センター	小牧営業所
二酸化炭素総排出量	2023 年度目標 (t-CO ₂)	160	152	125	1
	2023 年度実績 (t-CO ₂)	161	154	122	1
	目標比 (%)	101%	101%	98%	100%
	2022 年比 (%)	103%	101%	93%	100%
	前年比 (増減率)	+3%	+1%	△7%	±0%
①購買電力排出量	2023 年度目標 (t-CO ₂)	110	88	79	1
	2023 年度実績 (t-CO ₂)	111	87	84	1
	目標比 (%)	101%	99%	106%	100%
	2022 年比 (%)	105%	101%	100%	100%
	前年比 (増減率)	+5%	+1%	±0%	±0%
②化石燃料排出量	2023 年度目標 (t-CO ₂)	50	64	46	0
	2023 年度実績 (t-CO ₂)	51	66	38	0
	目標比 (%)	102%	103%	83%	-
	2022 年比 (%)	100%	100%	81%	-
	前年比 (増減率)	±0%	±0%	△19%	-

※2023 年度より 2022 年度を基準年として設定

※実績数値の小数点第一位以下は四捨五入で表しています

[事業所別 水資源使用量]

事業所 項 目		本部センター	稲沢センター	東部センター	小牧営業所
水資源 使用量	2022 年度実績 (m ³)	195	119	211	9
	2023 年度実績 (m ³)	180	126	74	12
	2022 年比 (%)	92%	106%	35%	133%
	前年比 (増減率)	△8%	+6%	△65%	+33%

※2023 年度より 2022 年度を基準年として設定

※実績数値の小数点第一位以下は四捨五入で表しています

[循環型資源 種類別回収実績]

年度	商品カタログ類	ダンボール類	牛乳パック	卵パック	内袋(ビニール類)
2022 年度実績 (t)	258 (t)	1 (t)	2 (t)	2 (t)	3 (t)
2023 年度実績 (t)	239 (t)	1 (t)	3 (t)	2 (t)	4 (t)
2022 年比 (%)	93%	100%	150%	100%	133%
前年比 (増減率)	△7%	±0%	+50%	±0%	+33%

※実績数値の小数点第一位以下は四捨五入で表しています

5. 2023 年度取り組み結果/評価/次年度の取り組み

①二酸化炭素排出量

地球温暖化の要因となっている二酸化炭素の排出削減に取り組みました。

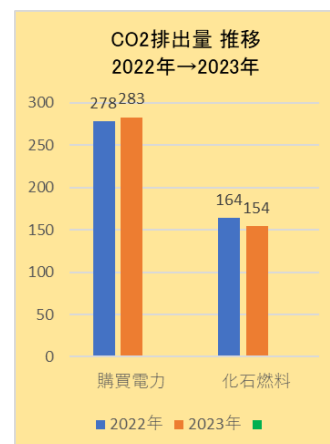
- ・2023 年度の二酸化炭素の排出量は 438t-CO₂ でした。
- 〔・購買電力による二酸化炭素の排出量は 283t-CO₂ でした。
- ・化石燃料による二酸化炭素の排出量は 154t-CO₂ でした。

■購買電力による二酸化炭素排出量の削減

・2023 年度は、各配送センターに冷凍蓄冷剤用冷凍機を増設、本部の営業部門の執務室を拡張したことにより、本部センターの消費電力量が増加しました。

また、稲沢センターの物流部門（生協連合会アイチョイス）で設備の稼働率が上がったことにより、消費電力量が増加しました。

次年度においても、全役職員で節電に取り組み、消費電力量の抑制に努めていきます。



2023 年度 計画・取り組み	達成状況	評価と見直し
①施設設備の低炭素化（照明器具取替え）	○	・稲沢センターの冷凍庫内の照明器具、本部センターの冷蔵庫内の照明器具を一部省エネ型に取替えました。計画的に順次取替えを行っていきます。
②連合会と施設の共同使用の継続	○	・2023 年度も連合会と合理化を図るために施設設備を共同使用しました。本年度も消費電力量が増加しましたが、全体で消費電力の抑制に取り組んでいきます。
③節電の徹底	△	・EA21ems 委員で施設点検を実施しましたが、本部/稲沢センターで消費電力量が増加しました。次年度も引き続き、全職員で節電に継続して取り組んでいきます。

■化石燃料による二酸化炭素排出量の削減

・2023 年度は、組合員の新規拡大が計画数値には及ばなかったものの、利用人数は伸長しましたが、配送効率の見直しにより前年を下回る結果となりました。次年度も引き続き、適宜、配送コースを調整するなど、適正化を図っていきます。また、安全運転＝エコ運転を徹底し、配送車両と営業車両にはインカメラを導入して、防衛運転に努めていきます。

2023 年度 計画・取り組み	達成状況	評価と見直し
①配送コースの適正化	○	・宅配システムの利用人数は増加しましたが、東部センターで化石燃料による二酸化炭素の排出量を抑制することができました。次年度も配送件数が増加していくことが想定されるため、適宜、配送コースの適正化を図っていきます。
②エコ運転＝安全運転の徹底	○	・無事故プログラムを活用し、ドライブレコーダーの記録映像によりヒヤリハットを共有し、安全運転の徹底を図りました。また、次年度からはインカメラを導入し、防衛運転にも努めていきます。
③イレギュラー配送の抑制	○	・イレギュラー配送を抑制するために、誤配率削減への目標を設定し取り組みを実施しました。次年度も目標の達成に向けて取り組んでいきます。

②水資源

水資源を守っていくために、各事業所にて節水に取り組みました。

■節水への取り組み

・2023 年度は数値目標を達成することができました。前年度に東部センターが異常数値であったこともあり、数値目標を大きく下回る結果となりました。

次年度も引き続き、節水に取り組み、この水準が維持できるよう継続して取り組んでいきます。

2023 年度 計画・取り組み	達成状況	評価と見直し
①節水の徹底	○	・東部センターにて数値目標を大きく下回る結果となりました。他のセンター、事業所では前年数値を維持する形となっています。現状、本部生活センターのキッチンスタジオの貸出が増えていますが、節水の徹底に努めています。
②施設設備の点検（異常時の早期対応）	○	・特段の異常は発生しませんでした。万一、異常が発生した場合には早期に対処していきます。

③廃棄物

生協の循環型資源の回収への取り組みを組合員に周知するために、チラシを作成し回収の呼びかけをしました。

■循環型資源の回収への取り組み

・2023 年度も生協間での連携を活かして、再資源化への取り組みについて、より多くの組合員に周知を図るためのチラシを作成し、回収の呼びかけを行いました。

ただし、回収実績は 249t となり目標 (280t) への到達には及びませんでした。

次年度も引き続き、生協の取り組みを組合員に周知して、回収量増を目指していきます。

2023 年度 計画・取り組み	達成状況	評価と見直し
①循環型資源の回収	△	・連合会を通じた生協間連携を活かして、再資源化への取り組みを強化していくために、組合員にチラシを配布し、呼びかけを行いました。目標への到達には至りませんでした。 ・ネット注文の利用を推進し、新規加入組合員にはインターネット環境への誘導を図ったことにより、カカグ不要登録者が約 1,000 人増加しました。 ※カカグ回収量が減少しました。



商品・サービス

環境に配慮した商品の普及の他、食育・環境・消費者啓発に関する情報の発信、交流の機会をつくりました。

■2023 年度の取り組み結果

2023 年度は、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の 5 類に移行されたことにより、商品以外のサービスについて、オンラインを効果的に活用しながら、組合員とのコミュニケーションの機会を再開しました。

「食育」や「環境」に関する企画では、それぞれに関心を持つ組合員と交流する機会となり、以前の活気が戻ってきました。次年度も組合員との交流の機会を充実していきます。

2023 年度 計画・取り組み	達成状況	評価と見直し
①商品 ・環境商品の普及 ・フェアトレード商品の普及 ・産直生産者との交流促進 ・グリーン購入	○ ○ ○ ○	・商品カタログにて商品普及を継続しました。 ・商品カタログにて商品普及を継続しました。 ・12 つの生産者と交流会を開催しました。 ・グリーン購入適合商品の購入を継続しました。
②エコライフの提案 ・「MOTTAINAI」フリーマーケットの開催	○	・資源を有効活用することを目的に「MOTTAINAI」をテーマにフリーマーケットも開催し、当組合の取り組み紹介や、組合員のみなさんや地域の方々と身近な環境問題について考える機会を設けました。
③食育・環境・消費者啓発 ・食育体験プログラム こめこめクラブ ・食の問題に関する講演会 ・環境問題に関する講演会 ・環境問題の映画上映会/環境教室 ・ぐりーんりんぐ発行 ・市民くらしの講座 ・行政と連携した消費者啓発	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	・田植え/生育観察/稲刈りを食育と農業体験を実施しました。 ・ゲーム編集食品に関する講演会を開催しました。 ・プラスチックゴミ問題の講演会を開催しました。 ・プラスチックゴミ問題に関する映画上映と、身近な河川の水質に関する環境教室を開催しました。 ・春/夏/秋/冬と年に 4 回発行できました。 ・津島市と協力し「食」の講座を開催しました。 ・10 月に一宮市、2 月に稲沢市の消費生活展に出展し、ネオニコチノイド系農薬やアニマルウェルフェアに関する情報を発信しました。

ぐりーんりんぐ

「ぐりーんりんぐ」は食育推進、地域農業振興をめざし、行政と事業者、教育機関、生協が共同して年に 4 回発行しています。一宮市内の小学 1・2・3 年生に配布されています。



危機管理・事業継続

災害発生時の安否確認訓練を実施した他、災害の発生に備えて非常食などの備蓄品を補充、各種マニュアルの見直しを図りました。

■2023 年度の取り組み結果

・2023 年度も各種の防災への備えの充実を図りました。アイチョイスグループ全体で「BCP(事業継続計画)マニュアル」を見直し、改定しました。また、火災発生時の対応マニュアルの点検と避難訓練を実施しました。

引き続き、「BCP(事業継続計画) マニュアル」をはじめ、各種マニュアルなどの見直しや訓練を実施し、万一の備えを強化していきます。

2023 年度 計画・取り組み	達成状況	評価と見直し
①火災発生時の対応	○	・部署ごとに通報・消火・避難マニュアルの点検、避難訓練を実施しました。
②「BCP マニュアル」の見直し	○	・BCP マニュアルを改定しました。全役職員への周知を行いました。 ・災害発生に備えた器具備品の設置と非常食など、3 回目となる備蓄品を補充しました。
③自然災害時の安否確認訓練	○	・連合会と共通する台風マニュアルに沿って、年 3 回の安否確認訓練を実施しました。
④災害支援や防災に繋がる取り組み	○	・NPO 法人レスキューストックヤードと愛知県内の協働による災害支援時の講習会を受講し、今後の連携について準備を進めました。

6.環境関連法規等の遵守

過去 3 年間、環境関連法規への違反、関係諸機関等からの指摘等はありませんでした。
法的義務を受ける主な環境関連法規等は次のとおりです。

主な適応法規	要求事項
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物の適正処理
資源有効利用促進法	指定表示製品の分別識別表示
容器包装リサイクル法	容器包装廃棄物の排出の抑制、分別収集及び再商品化の促進
家電リサイクル法	特定家電製品の適正処理
フロン排出抑制法	フロン類の適正管理・点検・記録
大気汚染防止法	配送車両、営業車両の排気ガス
浄化槽法	定期的な保守点検・清掃・法定検査
騒音規制法	特定施設の設置の届出
振動規制法	特定施設の設置の届出
消防法	消防用設備等の定期点検・総合点検
労働安全衛生法	衛生委員会の設置
道路交通法	安全運転の徹底・安全運転管理者の選任・アルコールチェックの実施
県民の生活環境の保全等に関連する条例	原動機の停止指導及び周知の措置

7.代表者による全体評価/見直し

2020年に発生した新型コロナウイルス感染症は、ようやく2023年5月に感染症法上の5類に移行されることとなり、日常生活や社会活動においては徐々に以前の暮らしに回復し、さまざまな形で自粛を強いられていたイベント等が再開するなど、生協の活動においても活気を取り戻した1年となりました。

一方で、海外の争乱や円安、政府の物価対策政策などの影響による物価の高騰は、私たち消費者の暮らしと同様に、生協の事業を取り巻く経営環境にも大きな影響を生じさせた1年でもありました。

また、地球環境や、貧困や差別などの格差が広がる社会に対する危機感から、SDGs（持続可能な開発目標）への関心も高まっています。地域生協として、持続可能な社会を目指し、SDGsで謳われている目的にも留意して事業活動に取り組みました。

①2023年度 総括

- 事業の柱となる供給事業では、1年間で4,779人の新しい仲間を迎え入れることができ、供給高は計画には及ばなかったものの43億円を超える結果となりました。前年比では108.2%と伸長することができました。
引き続き、組合員または地域の消費者に「食」を中心とした生活物資の供給を担う「ライフライン」としての役割と、地域における生協の役割を果たしていけるように、組合員と役職員が一体となって事業の推進に取り組んでいきます。
- 今年度より、2022年度を基準年として取り組みました。二酸化炭素の総排出量の目標は達成することができ、前年実績も下回る結果（前年比1%減）となりましたが、事業所によっては前年を上回る結果となっています。
購買電力における排出量の抑制については節電の徹底の他、効果的に施設設備の省エネ化を図っていきます。また、化石燃料による排出量の抑制については、事業活動の拡大を進めていく上で排出量の増加が想定されますが、安全運転（エコ運転）の徹底の他、地図情報システムを効果的に活用するなどして最適化を図っていきます。
- 「食」や「環境」をはじめとする、暮らしに関わる様々な情報の発信や学びの機会の充実を図ってきました。より多くの組合員に参加いただけるよう、開催方法や企画内容を工夫していきます。

②中期計画の目標達成に向けた取り組み

- 今年度より基準年度を変更したことや、供給事業の中長期計画を考慮し、環境経営目標の中期目標の数値を見直しました。二酸化炭素の総排出量は、2022年度実績を基準として2030年度までに5%の削減に向けて取り組んでいきます。

③廃棄物の抑制と再資源化

- 組合員のみなさんにインターネット発注への促進を図り、紙媒体の発行部数の削減に取り組みしました。引き続き、資源の有効活用や資源循環型社会を目指して取り組んでいきます。

④環境経営方針及び環境目標、環境経営計画、環境経営システム

- 環境経営方針は、これを堅持します。環境目標、環境経営計画については、低炭素化に向けて設備機器の見直しを図っていきます。環境経営システム（実施体制を含む）についても堅持していきます。

⑤環境に配慮した事業運営

SDGs（持続可能な開発目標）の実現に向け、地域生協として組合員のみなさんと共に取り組んでいきます。

2024年6月28日

理事長（代表理事） 船橋弘行



一宮生活協同組合

一宮市末広2丁目19番1号

<https://ichoice-coop.com/ichinomiya-coop/>